



乳幼児教育・保育推進事業 通信
～令和6年度 乳幼児教育・保育協働研修～



令和6年10月24日(木) 第8回研修会(教育・保育の質向上分野)を開催しました。

16名の先生方と一緒に学び合いました。(保育所(園)2名・幼稚園3名・認定こども園8名
小学校3名)

講師 西村 恵里香 先生

- ・宇治市東宇治図書館 主任
- ・図書館司書
- ・絵本専門士 (絵本に関する高度な知識、技能及び感性を備えた絵本の専門家)



講師の先生のお話の中で、心に残ったこと
(参加できなかった仲間に知らせたいこと)を
教えてください。

絵本を一緒に楽しむ気持ち
(いつも読むだけでおわっ
ていた気がします)

絵本の読み聞かせは一人一
人目を合わせながらするこ
とが大切

絵本に触れる環境を整えるの
は大人の役目

絵本を見る時に大人と
子どもでは見ていると
ころ、注目するところ
が違ふこと

人の話を聞くことができる子ども
は読み聞かせを通して育むことが
できるということ



何回も同じ絵本を読んでと
持ってくる子どもについて
同じであるか確認している
のではないかとされていて
「なるほど」と感じた。同
じで飽きてしまわないかな
と思っていたけどそうでは
なかったのですね。



絵本は読み合い。
絵と言葉を通して人
とのコミュニケーションを身に付けるこ
とができる。

「金魚がにげた」のお話
で” にこにこ” が印象に残
りました。つい白目の金魚
ばかりを追って子どもた
ちにどこにいるのか共有
しがちだけど子どもたち
の視点を決めつけてはい
けない。





読み聞かせ体験で、心に残ったこと

(参加できなかった仲間に知らせたいこと)を教えてください。

字を追ってしまって絵をじっくり見れていないことに気づきました。

絵本の絵に注目して小さなことも見逃さないようにしたい。

字を目で追っていない子どもは絵での気づきがあり、大人が気付いていないことにも目がいつている。発見！！

「がたんごとん がたんごとん」のお話はよく乳児の部屋でも読みますが電車の顔に注目したことがなかったのでおどろきました。

絵本の読み聞かせは読んでいる人と見ている子とのコミュニケーションであることがよくわかり、文字ではなく、絵や音に集中する楽しさを知る事ができました。

“きんぎょがにげた”の絵本を何回も見たことがあるのに表情が違う事に気付いていませんでした。

何度も読んだことのある絵本でも新しい気づきや発見があったので絵本っておもしろいし、子ども達にとってとても楽しいんだと気付きました。

絵が細かい絵本を読むことで子どもの想像が膨らみ感性が育まれる。

字を追うのではなく字を読めない子どもの立場に立って読むこと

絵本には子どもながらの発見がたくさん隠されており、その発見が大切である



子どもは絵を見ている。繰り返し読み聞かせをすることが大事である。大人と子どもは対等であり、一人ひとりの子どもの顔を見ることが大切である。

目を合わせながら読むようにしたい。

子どもたちの前で読み聞かせをする時は一人一人と充分目を合わせることが大事にしたい。

読み聞かせの時に一人一人の子どもたち（聞き手）と目を合わせることが意識したい。

絵本を読む際に子ども一人一人と目を合わせることの大切さを学べたので活かしたい。

14ひきのねずみシリーズを子どもたちに薦めたい。

文字だけではなく絵を見ること、子どもたち一人ひとりの顔を見ながら読んでいきたい。
言葉を学ぶ、表現力を高めるというところでは、どの年齢でも大切なので絵本を読む時間を大切にしていきたい。

支援の必要な幼児がいるが読み聞かせを感じられる場を考えたい。気を付けているつもりであるがさらに気をつけたい。

読み聞かせは子ども達とのコミュニケーションであることを意識して読んでいきたい。また、大人が絵本を選ぶことの責任を持っていきたい。

保育や授業で活かしたいこと



子どもたちは絵を見ているのもっとじっくりページをめくってあげたらいいのだと思った。気を付けたい。

言葉を学ぶ、表現力を高めるというところでは、どの年齢でも大切なので絵本を読む時間を大切にしていきたい。

読み聞かせや読書の時間をとっていきたい。

何を读もうか集団の中でも選んでしまいがちだけど子どもたちにもっと自分で選べる環境を整えてあげたい。(0歳児)

大人たちが環境を整えていくことが大切なので子どもたちのために、しっかり考えておきたい（貸し出しの日など）

身近にある絵本のタイポグラフィに注目したい。

必要以上に子どもの反応をひろっていたかもしれないので、気付きに対して受け止めるくらいにとどめておくことも大事なのだと感じた。

読み聞かせをしてくださる時すごく引き込まれたので、読み方を工夫して子どもたちが面白いと思える読み聞かせをしたいです。



心地よい素敵な時間を過ごすことができ良かったです。明日からの保育で生かしたいことがたくさんあり良かったです。

この研修に参加出来たこと、宝物になりますね。

絵本について深く楽しく学ぶことができて良かったです。

絵本の良さを職場で広めましょー！

絵本が好きな方がたくさんいらっしやったので絵本の魅力について語り合いたいなと思いました。

子どもにとって絵本はどれだけ大切なのか知っていただきたいです。

一緒に体験した
仲間に一言メッセージ



絵本を読むという時間を大切にしていきましょうね。

いろんな視点でいろんな本を楽しみましょう。子どもたちと共に…

絵本って子どもだけじゃなく、大人もとっても楽しめるものですね。

たくさん絵本を読みましょう！

ありがとうございました。

共に受講できることができて嬉しいです。
ありがとうございました。





参加者から講師の先生へ 質問コーナー

Q.1 年齢に合った絵本の選び方を教えてください。



A.1 絵本においては、0・1・2 歳児は一括りとなります。

→「めくれば次に進むのが本だ」という認識を体感・体験することが大切な時期です。

- 原色ではっきり描かれている絵本（特に5か月くらいまで）
- 2回繰り返すオノマトペが多く含まれ、耳から心地よい刺激を与える作りになっている絵本

（特に喃語に近い単語を含む・オノマトペが畳語になっているものがおすすめです。）

- 同じ文が繰り返し使われている絵本
- ボードブック（分厚い紙でできている絵本は頑丈なため、2 歳になってもおもちゃの一つとして置いておくことができます。）

絵本においては、3 歳児～5・6 歳（文字が読めないまでの時期）が一括りとなります。

●しっかりと聞かせる（起承転結がはっきりした）絵本は、読み聞かせをすると最低でも 7 分かかります。3 歳児からは、この 7 分間を集中して聞く能力を持っています。（「14 ひきのあさごはん」「ぐりとぐら」で 3～4 分。その倍の時間集中できます。）まずは目安として①起承転結がはっきりしているもの ②読んでみて7分あるもの を探してみてください。意外と少ないと思います。

●ベストセラーよりもロングセラーから絵本を選んでください。読み継がれてきた絵本には理由があるからです。

Q.2 子どもが安心して聞くことができる声のトーンや絵本の世界を子どもに感じてもらうにはどのような読み聞かせが良いのでしょうか。

A.2 トーンは読み手の個人差があるので関係はありません。安心して聞いてもらうためには、読み手と聞き手の間の信頼関係が大切です。初対面であれば、まずは信頼関係を構築するため手遊び・わらべうた・会話・簡単な絵本で目と目を合わせることが 5 回以上となるようにしてください。読み聞かせの合間にも目線を合わせるよう心掛けてください。

Q.3 支援の必要な幼児に、読み方の抑揚をつける方が良いのか、つけない方が良いのか、どちらの方が良いのか、研修先の先生によって違うので教えていただきたいです。

A.3 絵本専門士養成講座では、「絵に合った読みかたをすること」と学びました。ナンセンス絵本のダイナミックな絵であれば派手に、深い落ち着いた内容であれば朗読のようというイメージです。なお、オーバーに声色を変えて読むと、「演じる」ことになり、絵に意味がなくなります。「演じ聞かせ」ではなく「読み聞かせ」といわれるゆえんです。文章に余計な言葉を足すのと等しく、声色を変えることも著作権の侵害だと考える作家さんもうらっしゃるようです。（「そらまめくんのベッド」の作者なかやみわさん：直接伺いました）一方で、紙芝居は「演じる」と言い、オーバー気味にすることが可能です。声色を変えるのが得意な方には紙芝居が向いていると言えます。

おすすめは、声色を変えるのではなく、読む「間」と「緩急」で変化をつける読み方です。怖い・危険・急ぐ・登場人物が小さいなどの場面は早く読み、安心・ゆったり・一件落着・登場人物が大きいなどの場面ではゆっくり読むことで、充分伝えることができます。

